

<目的> 婦人服の服種およびシルエットは、体型づけられた衣服の仕立て映えに関わる形成能、弾性保有能、ドレープ能を決定する力学量パラメータを用いて判別できることを、これまでに明らかにしてきた<sup>1), 2)</sup>。本報では、“(1)与えられた婦人服地の力学特性に基づいて、最適な衣服の服種とシルエットを客観的に決定する。(2)意図する服種とシルエットのデザインに最適な布を選別する。”を目的として判別項目を細分化し、単純化した判別式を導いてその実用化について検討した。

<方法> 試料は、既報と同様に、美しく優れた外観を持ち、かつ着用感の良い衣服の残布196種類を収集して用いた。KES-Fの標準条件で測定したこれら試料の曲げ、せん断特性、および単位面積当たりの重量から、布の形成能、弾性保有能、ドレープ能を決定する力学量パラメータを算出し、判別分析を行った。判別のカテゴリーは、試料収集の際に同時に得た服種とシルエットの情報に基づいて設定した。

<結果> 判別分析の結果、第一段階として2対の服種、すなわち、ワンピースドレスとスーツ、ブラウスとスカートを判別する単純な式を導いた。さらに第二段階として各々の服種を、テーラードなフィット性の強いシルエット、張りのあるルーズフィットなシルエット、および張りのないドレープの美しさを表現するルーズフィットなシルエットの3タイプに判別する式を誘導した。これらの式の判別的中を確認するため実地点検を行った結果、判別式は前述の二つの目的を果たすのに有効であることが確認された。